
愛知医科大学医学部

年次報告書

2025(令和7)年度



愛知医科大学 医学部

医学教育分野別評価 愛知医科大学医学部医学科 年次報告書

2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2019 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2020 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえ、2024 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日を対象としている。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 建学の精神を使命として定めている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 継続的に建学の精神、学是を適宜大学紹介パンフレット等の大学の刊行物に掲載し、学外へ発信しており、2023 年度からは時代の変化に対応し SNS(X、Instagram)の活用をしている(資料 1-3)。
- ・ 継続的に市民公開講座を実施し、地域社会の教育・文化向上に寄与した。また、SNS を活用し、事前周知、事後活動報告を行うことにより、情報発信の拡充に努めた(資料 4)。
- ・ 継続的に教職員の新規採用時及び学生の入学時に学是を記した携帯用カードを配付し、周知した。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1：2023 年度大学紹介パンフレット
- 資料 2：愛知医科大学公式 SNS「X」
- 資料 3：愛知医科大学公式 SNS「Instagram」
- 資料 4：2024 年度市民公開講座ホームページ

質的向上のための水準：適合…指摘事項等無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 「学内研究ユニット創出支援事業成果発表会」を実施する中で、2 学年次生の「基礎医学セミナー」でも同発表会でのポスター発表を課し、研究思考の涵養を図り、相互関係の交流を施した(資料 5)。
- ・ 本学の学術国際交流の進展に寄与するため、継続的に外国人研究者及び留学生を受入れた(資料 6)。
- ・ 昨年度に引き続き、協定大学との交換留学事業を実施し、オンライン等のプログラムも計画した(資料 7-9)。また、これらの協定大学から留学生の受け入れも積極的に行った(資料 10)。学生交換に加えて、教員間の相互訪問も実現し、教育環境の向上を目指した意見交換や、プログラムの改善に取り組んだ(資料 11)。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 5：学内研究ユニット創出支援事業成果発表会ポスター
- 資料 6：外国人研究者及び留学生一覧
- 資料 7：学術国際交流協定大学等への派遣学生一覧
- 資料 8：ハワイ医学教育プログラム(HMEP)決裁書
- 資料 9：オンライン医療英語実習コース学生募集リーフレット
- 資料 10：学術国際交流協定大学からの学生受入一覧
- 資料 11：学術国際交流協定大学との教員交流

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準:適合…指摘事項等なし

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターカリキュラム検討部門及び教務委員会においてカリキュラムを作成し、教授会にて承認を得て運用している。その後、教育プログラム評価委員会による検証を経ることでPDCAサイクルを機能させている。
- ・ 2024年度新入生から、1年学次の単位数が2023年度と比べ、5.5単位減となるカリキュラムを実施した(資料12)。また、クリニカル・クラークシップにおいては、より診療参加型となる「クリニカル・クラークシップB」の実習週数を確保するため、2024年度4学年次生から、「クリニカル・クラークシップA」を40週から36週実施とし、2025年度5学年次生から開始する「クリニカル・クラークシップB」を32週から36週に拡充した(資料13)。
- ・ 2023(令和5)年度に「愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム」を開始し、2024(令和6)年8月27日付けで、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定された(資料14)。

改善状況を示す根拠資料

資料12:2024年度学生便覧

資料13:2024-2025年クリニカル・クラークシップAの組合せ

資料14:愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム認定(通知)

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生代表がカリキュラム検討部門に参加して教職員と自由に意見交換を行っている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、学生代表(各学年2名)が医学教育センターカリキュラム検討部門に

委員として参加し、議論を行った(資料 15)。

- ・ 昨年度に引き続き、学生代表(各学年 2 名)がメディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会に委員として参加し、議論を行った(資料 16)。
- ・ 昨年度に引き続き、学生代表(各学年 2 名)が教育プログラム評価委員会に委員として参加し、医学部 IR 室による各種調査結果の報告を受け、議論に参加した(資料 17,18)。

改善状況を示す根拠資料

資料 15：2024 年度第 1 回医学教育センターカリキュラム検討部門会議議事録

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

1.3 学修成果

基本的水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 2016 年度に策定した卒業時のコンピテンス、コンピテンシーを達成するためのマイルストーンを 2018 年度に策定している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、医学部 IR 室においてコンピテンシー・マイルストーン到達度調査等、各種アンケート調査を実施した(資料 19,20)。
- ・ 教育プログラム評価委員会では、医学部 IR 室からの 2023 年度の同調査結果の報告を受け、今後の対応について議論し、関連部門(医学教育センター、教務委員会等)に報告した。今後は、コンピテンシー・マイルストーンの達成度が低い項目を教育担当者連絡会等で周知し、改善を促していくことを計画した(資料 17,18,21,22)。
- ・ 昨年度に引き続き、医学教育センター主催「医学教育者のためのワークショップ」を活用し、コンピテンス、コンピテンシーの周知を行った(資料 23)。
- ・ コンピテンス、コンピテンシーを教育要項に反映させるため、医学部教科案内の作成方法に関する FD と教科案内作成依頼時に周知を行った(資料 24,25)。
- ・ 学生に学会参加の機会を与えるため、学会参加に伴う授業の欠席を出席の扱いとする取扱いを策定した(資料 26)。
- ・ 昨年度に引き続き、AIDLE-K 上で資料を配付し、学内外いつでも自己学習できる体制

を整備した(資料 27)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 19：2024 年度コンピテンシー調査報告書

資料 20：2024 年度マイルストーン調査報告書

資料 21：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 23：2024 年度医学教育者のためのワークショップタイムテーブル

資料 24：2025 年度教科案内作成要領

資料 25：2025 教科案内作成依頼文

資料 26：2024 年度第 11 回教務委員会議事録

資料 27：講義資料の掲載・記載事項

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒後研修終了時の学修成果を明確にし、卒業時の学修成果と関連づけて教育を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、コンピテンシー調査、研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケートを実施した(資料 19,28)。
- ・ 教育プログラム評価委員会において、2023 年度の同調査結果を基に今後の対応について議論し、関連部門(医学教育センター、教務委員会、卒後臨床研修センター)に報告し、対応を依頼した(資料 17)。
- ・ 卒後臨床研修センターとの連携を行い、卒後教育の観点から見た卒前教育の問題点のフィードバックを受ける体制作りを引き続き強化する。
- ・ 卒業時と卒後研修終了時の学修成果の共有化、関連付けを達成するため、医学教育センター、卒後臨床研修センターの更なる連携強化を引き続き計画している。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 19：2024 年度コンピテンシー調査報告書

資料 28：2024 年度研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケート

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 今後、使命と学修成果を見直す際には、教員だけでなく、学生、職員も参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学生、研修医、学外有識者、地域社会代表が参加している教育プログラム評価委員会で、IR 室からの学生アンケートの結果を元に、達成度が低い項目から課題を抽出し、各委員会や部署(教務委員会、医学教育センターカリキュラム検討部門、医学部 IR 室)にフィードバックし、対応を依頼した(資料 17,18,21,22)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 21：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 今後、使命と学修成果を見直す際には、他の医療職、患者など、より広い範囲の教育関係者の参加が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 3 ポリシーについて、教育プログラム評価委員会で議論し、一部修正が必要と判断した。その結果を教務委員会、入試委員会等にフィードバックし、回答書の提出を求めた(資料 18,22)。今後、その回答に基づき修正案を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生の学修意欲を刺激する目的で、問題基盤型グループ学修など多様な教育・学修方法を推進していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、講義は対面となっているが、Zoom を用いた遠隔講義(主に非常勤講師)及び授業録画は継続している(資料 29-31)。
- ・ AIDLE-K での小テストを継続している(資料 32)。
- ・ カリキュラム再編を行い、1 学年次講義に「PBL」、「ICT リテラシー」を新規に開講した(資料 32)。
- ・ Society 5.0 時代の医療を実践できる数理・データサイエンス・AI の基礎を身に付けることを目的とした「愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム」を継続している。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル)」に認定された(資料 14)。
- ・ 平等かつ公平に教育研究その他の活動を含む機会を提供するため、「愛知医科大学における障がいのある学生への支援の基本方針」を制定した(資料 33)。

改善状況を示す根拠資料

資料 14：愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム認定(通知)

資料 29：2025 年度講義動画の配信について【学生通知文メール】

資料 30：2024 年度 ZoomID・パスコード通知

資料 31：2025 年度講義動画視聴方法について

資料 32：2024 年度教科案内

資料 33：愛知医科大学における障がいのある学生への支援の基本方針

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1 学年次から 4 学年次にかけて、「早期体験実習」、「行動科学」、「プロフェッショナルリ

ズム」、「地域包括ケア実習」、「コミュニケーション実習」などを組み合わせ、生涯学習につながる教育を体系的に行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながる学修態度の向上に資するために 2018 年度から導入された e ポートフォリオを有効に活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 1 学年次から 4 学年次にかけて、「早期体験実習」、「行動科学」、「プロフェッショナルリズム」、「地域包括ケア実習」、「コミュニケーション演習」などを組み合わせ、生涯学習につながる教育を体系的に行うことを継続している。さらに実習の充実を図るため、2023 年度までの「早期体験実習 1 a(シミュレーション実習・コミュニケーション演習 1)」を「早期体験実習 1 a(シミュレーション実習)」と「コミュニケーション演習 1」に分離し、新規に開講した(資料 32)。
- ・ クリニカル・クラークシップで臨床実習支援システム(F.CESS)を活用しており、今後、医行為や経験症候などの分析を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 32：2024 年度教科案内

2.2 科学的方法

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1 学年次の「初年次医科学セミナー」、3 学年次の「基礎医学セミナー」などにより、科学的手法の原理、医学研究の手法が教育されている。
- ・ 臨床実習の現場で ICT が活用され、EBM を実践していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 基礎医学セミナーでは学生を研究室に 2 週間配属し、2 学年次生については研究創出支援事業によりポスター発表を実施した。また、学生相互の投票により最終日に表彰を行った(資料 34)。
- ・ クリニカル・クラークシップで UpToDate の利用を促し、ログの回数等を調査した。

また、4 学年次の臨床実習入門でも、実践中である(資料 32,35)。

- ・ 診療参加型臨床実習を充実させるため、臨床実習支援システム (F.CESS) を使用している。
- ・ 「初年次医科学セミナー」では、アクティブラーニングによる科学的手法の原理についての教育を実施した(資料 32)。
- ・ 学生の研究活動を支援し、日本心血管インターベンション治療学会 (第 50 回東海北陸地方会)、第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で学生が発表を行った。当該学会にて、それぞれ優秀発表賞、最優秀賞を受賞した。以上の受賞者に対して、「学生の表彰に関する規程」に基づき、学長から表彰した(資料 36)。

改善状況を示す根拠資料

資料 32：2024 年度教科案内

資料 34：学報原稿(学内研究ユニット創出支援事業成果発表会)

資料 35：2024 年度 UpToDate へのアクセス件数

資料 36：学生表彰資料(学会)について

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1～3 学年次の「選択講座」で、基礎科学、基礎医学の講座を中心に先端的な研究を学ぶ機会を設けていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 選択講座は 2020 年度から対象を 4 学年次まで拡大し、今年度も継続している(資料 37)。
- ・ 時代の変化に合わせて、AI リテラシーや機械学習の基礎等の講義を行っている(資料 37)。

改善状況を示す根拠資料

資料 37：2024 年度選択講座一覧

2.3 基礎医学

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、「統合講義（腫瘍学）」、「統合講義（炎症学）」を開講した(資料 32)。
- ・ 「薬理学ロールプレイ」を開講した(資料 38)。
- ・ 臨床医学における基礎科学・基礎医学学修内容の意味付けが明らかになるように、基礎科学・基礎医学科目の講義枠の一部に臨床講座教員が参画する「ジョイントセッション(JS)」を継続した(資料 39)。
- ・ JS が水平統合か垂直統合かを明確にするため、2025 年度教科案内に授業形態を明記するよう準備した(資料 40)。
- ・ 2025 年度正式実施に向けて、総合試験 2 をトライアル実施した(資料 41,42)。

改善状況を示す根拠資料

資料 32：2024 年度教科案内

資料 38：2024 年度薬理学ロールプレイ講義資料

資料 39：2024 年度教科案内(アクティブラーニング【AL】、ジョイントセッション【JS】の数)

資料 40：2024 年度教科案内作成要領

資料 41：2024 年度総合試験 2 トライアル実施案

資料 42：2024 年度総合試験 2 トライアル実施について(掲示)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、基礎医学において 6 年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 1 学年次で開講していた「医療のための数学」を、「統計学」と改め、1、2 学年次に開講した。
- ・ 昨年度に引き続き、「医療のための情報学」や「行動科学 1a」及び「選択講座」において、数理・データサイエンス・AI や研究倫理など将来必要となる学修内容を取り入れ

た(資料 32)。

- ・ 「ICT リテラシー」を開講し、ICT の活用のために必要な知識とスキルに関する学修内容を取り入れた(資料 32,37)。

改善状況を示す根拠資料

資料 32：2024 年度教科案内

資料 37：2024 年度選択講座一覧

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 「行動科学」、「プロフェッショナリズム」、地域医療等と連携した「地域社会医学実習」などを体系的に構築していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、「行動科学 1b・1c」、「プロフェッショナリズム 1a」、「地域社会医学実習」、「医療と倫理」を開講した(資料 32)。
- ・ 2 学年次の地域社会医学実習では、障害者施設で学んでいる。また、3 学年次の地域包括ケア実習では、希望者に対して老人ホーム等の施設で学ぶ機会を設けている(資料 43,44)。

改善状況を示す根拠資料

資料 32：2024 年度教科案内

資料 43：2024 年度地域社会医学実習の手引

資料 44：2024 年度地域包括ケア実習の手引

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、行動科学、社会医

学、医療倫理学、医療法学において6年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 3学年次「公衆衛生学」において、将来、東日本大震災のような災害が発生した際の対応に備え、健康危機管理の概論や災害医療対応の基本に関する内容を講義に取り入れた(資料32)。
- ・ 4学年次「医療と倫理」において、医療システムの変化を見据えた新たなテーマ(医療におけるAIの活用、先進医療と地域医療、先制医療など)を取り上げ、ディベート形式で授業を行った(資料45)。

改善状況を示す根拠資料

資料32：2024年度教科案内

資料45：2024年度医療と倫理ガイダンス資料

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 4学年次から5学年次にかけての40週の「クリニカル・クラークシップA」と5学年次から6学年次にかけての28週の「クリニカル・クラークシップ2」と段階的に患者診療への参加度をあげるプログラムを実践している。

改善のための助言

- ・ 全学生に重要な診療科で十分な臨床実習時間を確保すべきである。
- ・ 全学生が臨床実習の中で健康増進と予防医学の体験をすることができるよう工夫すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2024年度4学年次から、「クリニカル・クラークシップA」を40週から36週に、「クリニカル・クラークシップB」を32週から36週としたプログラムに変更し、開始した(資料46)。
- ・ クリニカル・クラークシップで臨床実習支援システム(F.CESS)を活用しており、今後、医行為や経験症候などの分析を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 46：2024-2025 年クリニカル・クラークシップの手引

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1 学年次から 6 学年次にかけて、計画的に患者と接する教育プログラムが実施されている。

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、臨床医学において 6 年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2024 年度からは 1 学年次に「コミュニケーション演習 1」を開講し、4 学年次の「基本手技・医療面接実習」まで、模擬患者と接する機会を設けた(資料 32)。
- ・ 昨年度に引き続き、2 学年次の「地域社会医学実習」において、障害者施設での実習を実施した(資料 43)。
- ・ 3 学年次の「地域包括ケア実習」における老人保健施設訪問は、2022 年度はコロナ禍のため実施できなかったが、2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症になったことを踏まえ再開し、継続している(資料 44)。
- ・ 1 学年次の早期体験実習、6 学年次の選択制での地域医療の実習は継続して行っている(資料 46,47)。
- ・ 多職種連携演習は、2024 年度も継続して実施した(資料 32)。

改善状況を示す根拠資料

資料 32：2024 年度教科案内

資料 43：2024 年度地域社会医学実習の手引

資料 44：2024 年度地域包括ケア実習の手引

資料 46：2024-2025 年クリニカル・クラークシップの手引

資料 47：2024 年度早期体験実習 1c 手引(ポートフォリオ)

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターから独立したプログラム評価委員会で、マイルストーン・コンピテンシーの達成度調査を実施し、検討内容は教務委員会などにフィードバックした(資料 17,48,49)。
- ・ メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会を開催し、同委員会で医学部 IR 室による授業評価アンケートの結果を議論した(資料 16)。
- ・ 引き続き、卒業生及び卒業生の初期研修病院に対してもコンピテンシー達成度に関する研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケートを実施した(資料 17)。
- ・ 「生命倫理 1・2」、「医療と倫理」と 1～4 学年次に繋がる倫理教育カリキュラムを策定した(資料 32)。
- ・ 「早期体験実習 1a」から「コミュニケーション演習 1」を独立させ、模擬患者と接する科目を充実させた(資料 32)。
- ・ 「検査医学」、「放射線医学」の開講学年を 3 学年次から 2 学年次に下げ、2 学年次から臨床医学の講義を始めた(資料 32)。
- ・ 基礎医学セミナーの開講学年を 3 学年次から 2 学年次に下げるため、2024 年度は移行期間として、両学年に開講した。また、2 学年次では「学内研究ユニット創出支援事業成果発表会」に参加した(資料 32,34)。
- ・ 1 学年次に PBL、USMLE の講義を新たに開講した(資料 32)。

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 32：2024 年度教科案内

資料 34：学報原稿(学内研究ユニット創出支援事業成果発表会)

資料 48：2024 年度第 7 回教務委員会議事録

資料 49：2024 年度第 8 回教務委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 水平垂直統合講義として開講されている「統合講義(腫瘍学、炎症学)」は、基礎医学講座、臨床医学講座が協力して実施されている。

改善のための示唆

- ・ 臨床医学において、現在は診療科別科目授業となっているが、今後水平的統合教育を推

進することが望まれる。

- ・ 腫瘍学、炎症学の学修効果を評価したうえで、基礎・社会医学と臨床医学を統合した科目を広く導入することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ シラバス作成 FD において、JS の増加を各科目責任者に促すとともに、医学教育者のためのワークショップにおいて、JS の現状について意見交換を継続して実施している(資料 23,40,50)。
- ・ 統合講義の拡充を図るため、基礎医学系科目の各論を臨床医学系科目で実施した(資料 32)。

改善状況を示す根拠資料

資料 23：2024 年度医学教育者のためのワークショップタイムテーブル

資料 32：2024 年度教科案内

資料 40：2024 年度教科案内作成要領

資料 50：2024 年度医学教育者のためのワークショップ_ジョイントセッションの構築

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、教育プログラム評価委員会を開催した。同委員会で、マイルストーン・コンピテンシー達成度調査の結果を議論し、問題項目を教務委員会等にフィードバックした(資料 17,48,49)。
- ・ メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会を開催し、同委員会で医学部 IR 室による授業評価アンケートの結果を議論した(資料 16)。

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 48：2024 年度第 7 回教務委員会議事録

資料 49：2024 年度第 8 回教務委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラム検討部門に他の医療職、患者代表など、広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターカリキュラム検討部門の外部委員に、他大学の教官を選任した(資料 51)。
- ・ 患者代表の参加については引き続き検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 51：2024 医学教育センターカリキュラム検討部門員名簿

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、卒業生が初期研修医として勤務する学外研修病院の研修指導者に対して、本学卒業生の評価アンケートを行った(資料 17)。
- ・ 昨年度に引き続き、研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケートを実施した(資料 17)。
- ・ 上記調査結果は、教育プログラム評価委員会に報告され、議論された(資料 17,48,49)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 48：2024 年度第 7 回教務委員会議事録

資料 49：2024 年度第 8 回教務委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、同窓生アンケートを実施する予定である。
- ・ 教育プログラム評価委員会で議論された内容は、教務委員会等へフィードバックされた(資料 48,49)。

改善状況を示す根拠資料

資料 48：2024 年度第 7 回教務委員会議事録

資料 49：2024 年度第 8 回教務委員会議事録

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- ・ 進級判定や卒業判定に関して利益相反の規定を作るべきである。
- ・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を設けるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 疑義申し立てについて、教務委員会で議題に上げた。
- ・ 総合試験2において、疑義申し立て制度を検討している(資料 52)。
- ・ 利益相反規定の整備のための資料を収集した。

改善状況を示す根拠資料

資料 52：2024 年度第 3 回教務委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- ・ 外部評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、定期試験の得点分布の集計を医学部 IR 室が行った。その結果を、プログラム評価委員会で検討し、カリキュラム検討委員会と教務委員会にフィードバックした(資料 18,22,53)。

改善状況を示す根拠資料

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 53：2024 年度科目試験分布

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学修成果を学生が達成していることを確実に評価すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進捗の判定の指針となる評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、総合試験 2 トライアルを実施し、得られたデータ等をもとに、本実施に向けて検討し、適切な評価ができるよう整備した(資料 54)。
- ・ 総合試験 4 C、5 C、5 再試験の出題問題数を 100 問から 150 問に増やすことを決定し、より適切な学修評価ができるようにした(資料 55)。
- ・ 教科案内作成に関する FD を実施し、評価方法の適正化を継続的に促している(資料 24)。

改善状況を示す根拠資料

資料 24：2025 年度教科案内作成要領

資料 54：2025 年度総合試験 2 実施案

資料 55：2025 年度総合試験合格基準等

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム単位ごとに試験の回数と方法を適切に定めることが望まれる。
- ・ 学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うべきである。

ドバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教育プログラム評価委員会における議論により、試験実施の方法や回数の改善の提案がなされた(資料 18)。
- ・ 教科案内作成に関する FD により、試験の回数の基準が明確に説明されている。筆記試験の割合を 100%にすることを避けるような方針になっており、知識以外の面の評価も推進されている(資料 24)。

改善状況を示す根拠資料

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 24：2025 年度教科案内作成要領

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 多様な入学者選抜方法で学生を受け入れていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2024 年度国際バカロレア(International Baccalaureate)選抜における受け入れ強化策として、IB 生が多数在籍する本学の強みを活かした取り組みを行った。
夏期：オープンキャンパスにおいて「在学生との交流会」を実施
秋期：在学生と担当職員による「学校見学及び個別相談」を実施
- ・ 2024 年度入試において、救護担当教員マニュアルについては感染症対応を緩和、不測の事態が発生した場合の対応マニュアルについては入試区分ごとに異なっていた対応方法等を全選抜統一化する等、試験運営に関わる各マニュアルの見直しを行い改訂した(資料 56,57)。
- ・ 2024 年度一般選抜の募集人員を 65 名から 70 名に増員した(資料 59)。
- ・ 大学入学共通テスト利用選抜(後期 募集人員 5 名)を廃止、前期日程の大学入学共通テスト利用選抜に一本化し、一般選抜の増員分に充てた(資料 58)。
- ・ 医学部入学者選抜の基本方針等を定めてホームページに掲載した(資料 60)。

改善状況を示す根拠資料

資料 56：2024 年度第 4 回医学部入学試験委員会議事録（抜粋）

資料 57：2024 年度第 5 回医学部入学試験委員会議事録（抜粋）

資料 58：2025 年度医学部入学志願者数一覧

資料 59：2025 年度学生募集ガイド

資料 60：医学部入学者選抜の基本方針、選抜方法と 3 要素及び求める学生像との関係（HP 掲載）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を明記することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、入学試験成績開示希望者に対して成績開示を行った(資料 61)。
- ・ 医学部入学者選抜検討ワーキングにおいて、医学部 IR 室の調査結果に基づき、過去の入学者選抜試験の妥当性について分析・検証を行った(資料 56)。
- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を開始した(資料 56,62)。
- ・ 入試制度の検討・策定と適切な入試の実施、さらに入試実施後の分析等を行うために 2024 年 9 月にアドミッションセンターを設置した(資料 63)。
- ・ 2024 年度入試から、愛知県地域特別枠を含む学校推薦型選抜の数学の出題範囲から数学Ⅲを除外した(資料 59)。
- ・ 入試ミスを防止するために、アドミッションセンターの協力のもと入試業務に関する手順書を改訂した。

改善状況を示す根拠資料

資料 56：2024 年度第 4 回医学部入学試験委員会議事録（抜粋）

資料 59：2025 年度学生募集ガイド

資料 61：2024 年度第 3 回医学部入学試験委員会議事録（抜粋）

資料 62：疑義申し立て制度

資料 63：愛知医科大学アドミッションセンター規程

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2019 年から 2024 年まで学生 1 人あたり約 0.86 人の教員を配置している(資料 64)。

年	医学部学生数	教職員数	内看護学部	差引教員数	学生一人当たり
2019	709	659	43	616	0.869
2020	718	658	43	615	0.857

2021	719	665	47	618	0.860
2022	724	657	45	612	0.845
2023	721	662	43	619	0.859
2024	712	655	43	612	0.860

- ・ THE 日本大学ランキングの「教育リソース」分野において、2024 年は調査はなかったが、それ以前の 3 年間は東海 3 県で 1 位（国順位 2021 年：14 位、2022 年：12 位、2023 年：10 位）であり、本学が全国でもトップクラスの優れた教育環境にあることを示している。
- ・ 高校生を対象とした職業体験(インターンシップ)、出前講義、大学・入試説明会、高校における系統的なキャリア教育への協力(講師派遣等)により近隣の高等学校との連携による教育活動に積極的に取り組んだ。

改善状況を示す根拠資料

資料 64：愛知医科大学要覧 2024

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2024 年度入試においても引き続き国際バカロレア選抜を行った(資料 65)。併せて、2025 年度に実施する「2026 年度国際バカロレア選抜」の出願要件及び選考方法等を見直し、その変更内容をホームページにて予告(公開)した(資料 66)。

改善状況を示す根拠資料

資料 65：2025 年度学生募集要項

資料 66：2026 年度医学部国際バカロレア選抜の出願要件及び選考方法等の変更について

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、指導講座制度について学生アンケートを実施した。なお、年度を跨ぐスケジュールによる実施であったことから、学生生活委員会での集計及び分析、教授会へのフィードバックについては、翌年度を予定した(資料 67)。
- ・ 保健管理センターにおいて、引き続き学生の身体的不調に対する対応を行った(資料 68)。
- ・ 昨年度に引き続き、学生ホールに設置した学生意見箱「学生の声」や Web 上の電子目安箱に寄せられた学生の意見に対して対応した。
- ・ 昨年度に続いて、2024 年度も学生相談室にてランチアワーを実施した。その利用状況を踏まえた次年度の学生相談室体制の見直しとして、当該時間を再編し、相談希望の多い金曜午後に振り替える形での相談時間の拡充を検討した。併せて、学生相談室規定を現行業務に即して一部改定し、それに伴い、相談員・スクールカウンセラーの役割を明確化した(資料 69)。
- ・ 昨年度に引き続き、メンタルヘルスが不安定な状態にある学生の早期発見と支援を目的に、UPI(学生精神的健康調査)を実施し、全回答者に結果をメールでフィードバックした。重点項目に該当した学生には個別に面談を案内し、必要に応じて心理士による面談を実施した。
- ・ 定期的な学生相談室だよりの発行及びホームページの更新を行った(資料 70)。
- ・ 2023 年度から再開した指導講座(教員)と保護者との個人面談を 2024 年度も引き続き実施した(資料 71)。
- ・ 授業欠席過多および成績不振の学生に関して、指導教員への面談実施の依頼を行った。学生課から面談結果のフィードバックを受け、メンタル面でのフォローが必要と判断された学生には、学生相談室から来談を促す連絡を行った(資料 72)。
- ・ 学生相談室の運営規程の守秘に関する項目について改定した(資料 73)。
- ・ 障がい学生支援委員会を設置すると共に、合理的配慮の提供に関する手続きのフローチャートを作成し、合理的配慮申請書と共にホームページに掲載した(資料 74)。
- ・ 孤独・孤立対策を実施している NPO 法人のチャット相談について、全学生に周知した(資料 75)。

改善状況を示す根拠資料

資料 67：指導講座アンケートフォーム

資料 68：2024 年度保健管理センター利用者状況表

資料 69：学生相談室関係

資料 70：学生相談室だより

資料 71：指導講座(教員)と保護者との個人面談実施報告

資料 72：授業欠席過多学生・成績不振学生への対応について

資料 73：学生相談室規程_新旧対照表

資料 74：障がい学生支援関係

資料 75：地域社会医学実習・プロフェッショナリズム 1a・学生ボランティア募集通知

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、成績不振学生に対する学修支援として、医学教育センター教員及び各講座からのチューター教員による指導を実施した(資料 76)。
- ・ 昨年度に引き続き、指導講座制度を活用して、希望学生に対し、正規教育カリキュラム以外の枠で講座での活動内容について知る機会及び、早期から興味のある専門分野の教員とキャリアに関して相談する機会を提供した(資料 77)。
- ・ 学生の研究活動を支援し、日本心血管インターベンション治療学会（第 50 回東海北陸地方会）、第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で学生が発表を行った。当該学会にて、それぞれ優秀発表賞、最優秀賞を受賞した。以上の受賞者に対して、「学生の表彰に関する規程」に基づき、学長から表彰した(資料 36)。
- ・ クラブ活動では、第 76 回西医体において陸上競技部に所属する学生が砲丸投げ競技、アーチェリー競技大会（ハーフ女子）でいずれも優勝した。以上の受賞者に対して、「学生の表彰に関する規程」に基づき、学長から表彰した(資料 78)。

改善状況を示す根拠資料

資料 36：学生表彰資料(学会)について

資料 76：2024 年度学修支援スケジュール(前学期・後学期)

資料 77：指導講座あて依頼書、講座等による学生指導体制について

資料 78：学生の表彰(クラブ表彰)について

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命を見直す際には学生代表を参加させるべきである。
- ・ カリキュラム評価部門会議や学生生活委員会に学生代表を参加させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、学生代表が委員として医学教育センターカリキュラム検討部門会議に参加し、検討課題について議論した(資料 15)。
- ・ 昨年度に引き続き、学生代表が委員として教育プログラム評価委員会に参加し、医学部 IR 室による調査結果などの報告を受け、議論した(資料 17)。
- ・ 2023 年度に組織されたメディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会に、学生代表が参加し、議論した(資料 16)。
- ・ 昨年度に引き続き、議題に応じてクラス委員、課外活動連絡協議会委員、医大祭実行委員会委員などの学生代表が学生生活委員会に参加し、議論に加わった。委員会では、「学生食堂における学割の導入」など学生からの要望を議論し、予算申請に繋げた(資料 79,80)。
- ・ 学生と大学執行部が「大学の未来を語る会」を開催できるよう、予算申請を行った(資料 80)。
- ・ 医大祭実行委員(学生代表)と学生生活委員(教員)が医大祭(愛知医科大学大学祭)の企画について検討し、医大祭を開催した。
- ・ 学生生活委員会への学生参加の規定化について、学生生活委員会で議題を提起して議論を行った(資料 81)。

改善状況を示す根拠資料

資料 15：2024 年度第 1 回医学教育センターカリキュラム検討部門会議議事録

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 79：2024 年度第 3 回学生生活委員会議事録（抜粋）

資料 80：予算明細書（未来を語る会・オレンジ学割）

資料 81：2024 年度第 9 回学生生活委員会議事録（抜粋）

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 数理・データサイエンス・AI 教育の企画立案や評価について審議するために組織された、メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会に学生も参加した(資料 16)。
- ・ クラブハウス設備の充実を図り、シャワー室の改装等における事業計画書を策定し、予算要求を行った(資料 82)。
- ・ 体育館の冷房設備の更新について事業計画書を策定し、予算要求を行った(資料 83)。
- ・ 「プロフェッショナリズム 1a」の講義において、孤独・孤立対策を行う NPO 法人のボランティア活動を奨励した。その結果、学生 18 名からの応募があり、7 名が採用された(資料 75)。

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 75：地域社会医学実習・プロフェッショナリズム 1a・学生ボランティア募集通知

資料 82：重点事業説明書（クラブハウスリニューアル）

資料 83：重点事業説明書（体育施設更新 2025）

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 適切にカリキュラムを実施するために教員の募集と選抜の方針を定め、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教員任用基準(案)の方向性、制度設計等について、医学部連絡協議会で検討した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 若年人口が多いなどの地域に固有な問題に対処するために、診療科の充実を行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 救急体制の整備の一環として、2024 年 6 月に Transitional Acute Care Unit (TACU)を
整備するとともに、クロス・アポイントメント制度を活用して他大学との人的交流を図
りつつ、人員の確保を行った(資料 84,85)。

改善状況を示す根拠資料

資料 84：TACU の運用開始に関する通知

資料 85：クロス・アポイントメント制度を適用した助教の採用

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 「選択講座」や「基礎医学セミナー」などにおいて教員の研究活動が学生の教育に活用されている。
- ・ 多様なテーマでFDが開催され、研修、能力開発支援に活かされている。
- ・ 教員の教育・研究活動に対し、大学が財政的支援を行う方針が策定され、履行されている。
- ・ 大学保育所の充実や臨床系女性教員の特別短時間勤務を設けるなど、女性教員のキャリア支援や男女共同参画推進に取り組んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教員評価委員会において、2024年度に実施する2023年度分教員評価から、診療活動も評価の対象に加えた(資料86)。
- ・ 昨年度に引き続き、Web視聴を併用した各種FDを開催した(資料87)。
- ・ 新勤怠管理システムDr. JOYを導入し、正式運用を開始した(資料88,89)。

改善状況を示す根拠資料

資料86：2024年度第1回教員評価委員会議事録

資料87：2024年度医学部FD開催一覧

資料88：第2回 医師の働き方改革に伴う制度改革の説明会にかかる動画配信について

資料89：Dr. JOY 制度概要案内マニュアル（抜粋）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ クリニカル・クラークシップは学生3名に対し教員1名以上が指導している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ クリニカル・クラークシップは学生3名に対し教員1名以上が指導をしている体制を継続している(資料46)。
- ・ 2024年度では学生1人あたり0.860人の教員を配置している(資料64)。

年	医学部学生数	教職員数	内看護学部	差引教員数	学生一人当たり
2019	709	659	43	616	0.869
2020	718	658	43	615	0.857
2021	719	665	47	618	0.860
2022	724	657	45	612	0.845
2023	721	662	43	619	0.859
2024	712	655	43	612	0.860

改善状況を示す根拠資料

資料 46：2024-2025 年クリニカル・クラークシップの手引

資料 64：愛知医科大学要覧 2024

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 図書室、マルチメディア教室、シミュレーション教育施設等を含め、カリキュラムが適切に実施され、保障されるだけの十分な施設・設備が整備されている。
- ・ 4～5 学年次（セミナー室）と 6 学年次（医心館）の専用自習スペースが整備され、活用されていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 防災訓練の際に、SECOM の安否確認システムの動作状況を確認している(資料 90)。
- ・ 大学の共有スペースに AED を増設・移設した(資料 91)。
- ・ 講義室の机に電源コンセントを増設した(資料 92)。

改善状況を示す根拠資料

資料 90：SECOM の安否確認システムメール

資料 91：AED に係るレンタル契約締結の決裁

資料 92：講義室の机の電源コンセント取付工事についての決裁

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 創立 40 周年記念事業としてのキャンパス整備が 2018 年に完了しており、新病院建設事業も実現している。
- ・ 2016 年度にキャンパスマスタープランを策定し、それに沿った整備計画が遂行されている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ クラブハウス内の給湯器を更新した(資料 93)。

- ・ クラブハウスのトイレ・シャワー室・照明設備・壁面塗装等を改修するための予算要求を行った(資料 83)。
- ・ 微生物学実習室の椅子を改修するための予算要求を行った(資料 94)。
- ・ ハードウェア保守期間の終了に伴い、証明書自動発行機を更新した(資料 95)。
- ・ 体育館の耐震対策のため、吊り天井の改修に係る予算要求を行った(資料 96)。
- ・ 体育施設の老朽化が進んでいるため、5 か年計画による改修を行うための予算要求を行った(資料 97)。
- ・ 学務情報システムサーバーの更新に係る予算要求を行った(資料 98)。

改善状況を示す根拠資料

資料 83：重点事業説明書（体育施設更新 2025）

資料 93：クラブハウスガス給湯器取替工事について

資料 94：研究棟 107 号室（感染免疫学・社会医学実習室）整備事業に係る予算要求説明書

資料 95：証明書自動発行機更新に係る予算要求説明書

資料 96：体育館及び武道場吊り天井の耐震対策等工事に係る予算要求説明書

資料 97：体育施設・設備修繕事業に係る予算要求説明書

資料 98：学務情報システムのサーバー等の入れ替えおよび保守等に係る予算要求説明書

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 大学病院と、80 か所近い学外の実習協力病院が、学生の臨床経験の場として確保されている。
- ・ シミュレーションセンターが整備され、専任教員が配置されており、学生の技能訓練の場として随時機能している。
- ・ 医学教育センターの主導により「医学教育担当教員連絡会」が毎月開催され、臨床実習指導者の情報交換や FD の場として機能していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ リハビリテーション施設を再整備し、バーチャルリアリティートレッドミルシステム (GRAIL)等を導入した(資料 99,100)。
- ・ Transitional Acute Care Unit (TACU)が 2024 年 6 月から稼働開始した(資料 84)。

- ・ 2024 年度総合防災訓練においてコンテナ医療ユニット (CoMU) を医学部 2 学年次生が見学した(資料 101,102)。
- ・ 学内とは異なる医行為や症候を経験するため、学外協定病院に実習生を派遣している。
- ・ 昨年度に引き続き、臨床実習において臨床実習支援システム (F.CESS) の活用を通じて医行為や経験症候の解析を続けている。

改善状況を示す根拠資料

資料 84：TACU の運用開始に関する通知

資料 99：リハビリテーション施設再整備計画に関する資料

資料 100：プロリハに関する資料

資料 101：学報 170 号

資料 102：総合防災訓練タイムテーブル

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学外協定病院を見直し、再整備について検討している。
- ・ 地域医療を中心に学ぶ場として、愛知医科大学メディカルセンターをクリニカル・クラークシップに引き続き活用している(資料 46)。

改善状況を示す根拠資料

資料 46：2024-2025 年クリニカル・クラークシップの手引

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ システムエンジニアが常駐し、情報機器のインフラに関するサポートをしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学内 LAN やマルチメディア教室などが整備され、授業支援システム「AIDLE-K」や自習用 e ラーニングコンテンツが提供されている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ UpToDate の利用に関する FD を実施した(資料 103)。
- ・ 情報セキュリティに関する注意喚起及びトレーニングを定期的に行っている(資料 104)。

改善状況を示す根拠資料

資料 103：2024 年度医学部第 1 回 FD 次第

資料 104：2024 年度標的型攻撃メール訓練の結果について

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 基礎医学セミナーを対面形式で実施した。相互評価により、優秀班を決定した(資料 105)。
- ・ 学内研究ユニット創出支援事業にて学生発表を行った(資料 5)。
- ・ 基礎医学セミナーの開講時期を検討している(資料 15)。

- ・ 指導教員制度により、学生が研究に関わる機会を設けている。
- ・ 研究者データベースを再整備し、大学 HP に公開した(資料 106)。
- ・ 昨年度に引き続き、選択講座を開講している(資料 37)。

改善状況を示す根拠資料

資料 5：学内研究ユニット創出支援事業成果発表会ポスター

資料 15：2024 年度第 1 回医学教育センターカリキュラム検討部門会議議事録

資料 37：2024 年度選択講座一覧

資料 105：2024 年度基礎医学セミナーに関する資料

資料 106：愛知医科大学研究者データベース

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学会発表や課外活動において特に優秀な成績を収めた学生を表彰し、その様子を学報に掲載して広く周知した(資料 107)。
- ・ 学生の研究活動を支援し、日本心血管インターベンション治療学会（第 50 回東海北陸地方会）、第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で学生発表を行った。当該学会にて、それぞれ優秀発表賞、最優秀賞を受賞した。以上の受賞者に対して、「学生の表彰に関する規程」に基づき、学長から表彰した(資料 36)。
- ・ クラブ活動では、第 76 回西医体において陸上競技部に所属する学生が砲丸投げ競技、アーチェリー競技大会（ハーフ女子）でいずれも優勝した。以上の受賞者に対して、「学生の表彰に関する規程」に基づき、学長から表彰した(資料 78)。

改善状況を示す根拠資料

資料 36：学生表彰資料(学会)について

資料 78：学生の表彰(クラブ表彰)について

資料 107：学報 176 号

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育センターの教員など、必要に応じて教育専門家にアクセスできる。
- ・ カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発、FD などにおいて、教育専門家を利用するための組織や体制が整っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育に関する FD 及び医学教育者のためのワークショップを継続実施した(資料 23,108)。
- ・ ベストティーチャー賞受賞者による教育技法や講義の工夫に関する講演を行った(資料 108)。
- ・ プログラム評価委員会では学外の教育専門家が参加し、評価を受けた(資料 17)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 23：2024 年度医学教育者のためのワークショップタイムテーブル

資料 108：2024 年度医学部第 3 回 FD 次第

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教育専門家の活用状況については、広報誌やホームページ等を通じて学内外に示している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、「医学教育センターニュース」を発行し、併せて大学ホームページに掲載し、本学の医学教育の動向を学内外へ周知している(資料 109,110)。
- ・ 医学教育センターの年次報告書を作成し、学内外に公開した(資料 111)。

改善状況を示す根拠資料

資料 109：医学教育センターニュース

資料 110：医学教育センターホームページ

資料 111：年次報告 2023

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 海外の教育機関との交流を促進するための協定締結が行われている。
- ・ 海外の教育機関への学生派遣や海外の教育機関からの学生の受入が継続的に行われている。
- ・ 多職種連携教育を通じて近隣の大学との協力関係が構築されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ コンケン大学、南イリノイ大学はじめ学術国際交流協定大学に 22 名の学生を派遣した(資料 7)。
- ・ コンケン大学、南イリノイ大学、ウッチ医科大学、ボズナン医科大学、タマサート大学から留学生を受け入れた(資料 10)。
- ・ 南イリノイ大学及びボズナン医科大学から教員を招聘した(資料 11)。
- ・ 本学教員が学術国際交流協定大学を訪問した(資料 11)。

改善状況を示す根拠資料

資料 7：学術国際交流協定大学等への派遣学生一覧

資料 10：学術国際交流協定大学からの学生受入一覧

資料 11：学術国際交流協定大学との教員交流

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教職員や学生の海外研修時の経済的補助や、海外からの留学生に対する宿泊施設の無償提供など、適切な資源が提供されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ ハワイ医学教育プログラム(Hawaii Medical Education Program)へ引き続き参加した(資料 8)。

改善状況を示す根拠資料

資料 8：ハワイ医学教育プログラム(HMEP)決裁書

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ プログラム改善のために定期的かつ統轄的に教学に関するデータを収集・解析すべきである。
- ・ プログラム評価を実質的に行い、その評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教育プログラム評価委員会を2回開催した(資料 17,18)。
- ・ 教育プログラム評価委員会議事録のフィードバックについて、検討事項を明示し、教務委員会、医学教育センターカリキュラム検討部門、入試委員会、医学部 IR 室に申し送りを行った(資料 21,22)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 21：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得できる学修成果および社会的責任について包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケートを実施した(資料

28)。

- ・ 同窓生アンケートは 2025 年度に実施予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 28：2024 年度研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケート

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム全体に関する学生からの意見を系統的に収集し、分析して、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、教育プログラム評価委員会では、学生代表参加の下、医学部 IR 室による各種調査の結果を議論した(資料 17,18)。
- ・ 教育プログラム評価委員会議事録のフィードバックについて、検討事項を明示し、教務委員会、医学教育センターカリキュラム検討部門、入試委員会、医学部 IR 室に申し送りを行った(資料 21,22)。
- ・ 昨年度に引き続き、臨床実習支援システム(F.CESS)を活用し、学生の臨床実習中の医行為や経験症候の集積、指導医からの評価・コメントの適宜フィードバックがなされている。また、収集したデータは教務委員会、教授会に共有した(資料 112)。
- ・ 昨年度に引き続き、医学教育センターでは、クリニカル・クラークシップにおける各診療科についての学生アンケートを実施し、コメントを各診療科へフィードバックした(資料 113)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 21：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 112：2024 年度第 3 回教授会議事録・資料

資料 113：2024 年度第 14 回教務委員会議事録（抜粋）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教員や学生からプログラム評価のためのフィードバックを解析し、その結果を利用してプログラム開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学部教育プログラム評価委員会にて意見があった各科目における小テストの評価割合について、委員会からの申し送りが教務委員会と医学教育センターカリキュラム検討部門に共有された。今後、教務委員会から各科目責任者へ医学教育改善に向けた周知を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 意図した学修成果について学生と卒業生の実績を客観的に分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、医学部 IR 室による、マイルストーン調査、コンピテンシー調査(卒業予定者アンケート)、研修医コンピテンシー調査(卒業生アンケート)が実施され、医学部教育プログラム評価委員会にて報告された(資料 17,18)。
- ・ 同窓生アンケートの回収率を上げるため、回収方法や内容の見直しを行った。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生の実績の分析を行い、責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学部 IR 室が入試データと学生成績進級状況の分析を行い、入学試験委員会に報告した(資料 114)。

改善状況を示す根拠資料

資料 114：2024 年度第 4 回医学部入学試験委員会議事録(抜粋)

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門に学生代表を参加させ、学生の意見をプログラム評価に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、教育プログラム評価委員会では、本学卒業の初期研修医、学外有識者、地域関係者と共に、各学年の学生代表が委員として参加した(資料 17,18)。
- ・ 昨年度に引き続き、メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会では、学外有識者、地域関係者と共に、各学年の学生代表が委員として参加した(資料 16)。
- ・ 教育プログラム評価委員会議事録のフィードバックについて、検討事項を明示し、教務委員会、医学教育センターカリキュラム検討部門、入試委員会、医学部 IR 室に申し送りを行った(資料 21,22)。

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 21：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

資料 22：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会フィードバック事項

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門によるプログラム評価の結果を閲覧できるようにすることが望まれる。
- ・ 卒業生が将来働く環境からの卒業生の実績に対するフィードバックを得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学部教育プログラム評価委員会議事録の閲覧方法については、その他の医学部の委員会の議事録の閲覧方法と併せて検討中である。
- ・ 昨年度に引き続き、研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケートを実施し、調査結果を教育プログラム評価委員会で議論した(資料 17,18)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

資料 18：2024 年度第 2 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 心不全包括管理センターを設置した(資料 115)。
- ・ Transitional Acute Care Unit(TACU)の運用を開始した(資料 84)。
- ・ アドミッションセンターを設置した(資料 107)。
- ・ 骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センターを設置した(資料 107)。
- ・ ≪プロリハ≫リハビリテーションを設置した(資料 116)。

改善状況を示す根拠資料

資料 84：TACU の運用開始に関する通知

資料 107：学報 176 号

資料 115：学報 175 号

資料 116：学報 177 号

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育センターのカリキュラム検討部門とカリキュラム評価部門に父兄後援会・医学部同窓会の代表や他大学の医学教育専門家を加えている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教育プログラム評価委員会を開催した(資料 17,18)。

改善状況を示す根拠資料

資料 17：2024 年度第 1 回医学部教育プログラム評価委員会議事録

8.2 教学における執行部・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 文部科学省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度実施要綱に基づく教育プログラムを実施するため、2023 年度に愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム委員会及び愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会を設置し、本プログラムの総括管理者である総合学術情報センターICT 支援部門長を中心に数理・データサイエンス・AI 教育の全学的な普及及び整備を推進した結果、2024(令和 6)年 8 月 27 日付けで、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル)」に認定された。令和 6 年度においても本プログラムの更なる改良、より良い教育の実施を目指すため、学生の授業評価アンケート、自己点検評価等を実施した(資料 16,107,117,118)。

改善状況を示す根拠資料

資料 16：2024 年度第 1 回メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会議事録

資料 107：学報 176 号

資料 117：2024(令和 6)年度愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム自己点検・評価報告書

資料 118：2024 年度データサイエンス教育についてのアンケート結果

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、「医学部における到達目標と方策」を作成し教授会に諮った。教授会承認後に大学運営審議会で審議された。また、年度末には「医学部における到達目標と方策の進捗状況」を作成し、同じく教授会に諮り、承認後に大学運営審議会で審議された(資料 119,120)。

改善状況を示す根拠資料

資料 119：2024 年度医学部及び医学研究科における到達目標と方策について

資料 120：2024 年度医学部及び医学研究科における到達目標と方策の進捗状況について

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 昨年度に引き続き、医学部予算案は教務委員会、学生生活委員会、医学教育センター運営委員会など各種委員会、基礎科学・基礎医学・臨床医学の各部門、医学部附属施設の各々が作成した予算要求内容を集約し、医学部教授会の下に設置されている医学部予算委員会での仔細な検証を経て、医学部教授会において審議の上、決定した。その後学校法人の予算会議で審議し、中長期計画との整合性を図りつつ編成作業を進め、こうして作成された予算案は「学校法人愛知医科大学寄附行為」第 28 条の定めに従い、理事会及び評議員会での審議と承認を経て次年度予算として成立した。今後もこれら教育予算の編成、配分プロセスの透明性を保ち、適切に執行していく(資料 121,122)。

改善状況を示す根拠資料

資料 121：学校法人愛知医科大学寄附行為

資料 122：医学部予算委員会規程

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2024(令和6)年度「私立大学等改革総合支援事業」に採択された(資料123)。
- ・ 厚生労働省2024(令和6)年度老人保健健康増進等事業に採択された(資料107,124)。
- ・ 教育の充実に向けた医学部の取り組みに対して積極的であった講座等に対して、本学の講義・実習内容を更に充実させ、効果的な教育を展開していくことを目的に教育充実活性化対策費(医学部長インセンティブ)が支給された(資料125)。

改善状況を示す根拠資料

資料107：学報176号

資料123：2024(令和6)年度「私立大学等改革総合支援事業」の選定結果について

資料124：2024年度大学附属施設における到達目標と方策の進捗状況について

資料125：教育充実活性化対策費(医学部長インセンティブ)の支給について

8.4 事務と運営

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ アドミッションセンター設置に伴い、専任の事務職員を配置した。
- ・ 日本医学教育評価機構(JACME)に事務職員の派遣を行った(資料126)。

改善状況を示す根拠資料

資料126：事務職員出向決裁書・契約書

質的向上のための水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 卒後臨床研修センターにおいて、NPO 法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価を受審した(資料 127)。
- ・ 動物実験部門において、公益社団法人日本実験動物学会による外部検証の 2025 年度受審に向けて準備を進めた。

改善状況を示す根拠資料

資料 127：JCEP 認定証・訪問調査進行予定表

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学生が愛知県へき地・地域医療研究会へ参加した(資料 107)。
- ・ 行政(名古屋市、長久手市、瀬戸市、尾張旭市)と連携した愛知医科大学公開講座を実施した(資料 116,128)。
- ・ 瀬戸市(瀬戸旭医師会等)イベントに学生ボランティアサークル(HIAMU)が参画した(資料 116)。
- ・ 能登半島地震活動報告会開催(職員・学生対象)を実施した(資料 115,129)。

改善状況を示す根拠資料

資料 107：学報 176 号

資料 115：学報 175 号

資料 116：学報 177 号

資料 128：学報 178 号

資料 129：2024(令和 6)年能登半島地震活動報告会ポスター

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 長久手市「ふるさと納税（寄附）制度」を活用した「ながくて4U 応援プロジェクト」へ参画した(資料 116)。
- ・ 学生の学外実習(早期体験実習 1c、地域社会医学実習、地域包括ケア実習、地域医療早期体験実習、クリニカル・クラークシップ A/B)を実施した(資料 130-137)。
- ・ 公益社団法人日本水難救済会との間で、海上保安庁の巡視船・航空機等を用いて行う洋上救急業務を円滑に実施するための相互協力に関する協定を締結した(資料 115,138,139)。
- ・ 愛知県との間で、愛知県肝疾患診療ネットワーク推進事業に関する委託契約を締結した(資料 140,141)。
- ・ 愛知県との間で、愛知県難病医療提供体制推進事業に関する委託契約を締結した(資料 142,143)。
- ・ 愛知県との間で、愛知県認知症疾患医療センター事業に関する委託契約を締結した(資料 144,145)。
- ・ 愛知県委託事業「2024(令和6年)度介護施設等防災リーダー養成研修事業」に採択され、計 10 回の防災リーダー養成研修を実施した(資料 115,116,124)。
- ・ 本学、愛知県及び愛知県医師会の三者共催による 2024(令和6)年度愛知県災害医療コーディネート研修を開催した(資料 116,124)。

改善状況を示す根拠資料

資料 115：学報 175 号

資料 116：学報 177 号

資料 124：2024 年度大学附属施設における到達目標と方策の進捗状況について

資料 130：2024 年度医学部 1 学年次早期体験実習 1c 依頼文

資料 131：2024 年度医学部 1 学年次早期体験実習 1c 実施要項

資料 132：2024 年度地域社会医学実習の実施について

資料 133：地域包括ケア実習依頼文

資料 134：地域医療早期体験実習依頼文

資料 135：クリニカル・クラークシップ A 救急車同乗実習依頼文
資料 136：クリニカル・クラークシップ A 依頼文
資料 137：クリニカル・クラークシップ B 依頼文
資料 138：洋上救急業務の協力に関する協定書
資料 139：洋上救急支援協議会役員会・総会案内
資料 140：愛知県肝疾患診療ネットワーク推進事業実施要領に基づく委託契約書
資料 141：2024(令和 6)年度愛知県肝疾患診療ネットワーク推進事業報告書
資料 142：愛知県難病医療提供体制推進事業に関する委託契約書
資料 143：難病医療提供体制推進事業実績報告書
資料 144：2024(令和 6)年度愛知県認知症疾患医療センター事業委託契約書
資料 145：2024(令和 6)年度認知症疾患医療センター事業実績報告書

9. 継続的改良

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 機関別認証評価と医学教育分野別評価を受け、組織と機能の改善や課題の修正に取り組んでいる。
- ・ 私立大学等改革総合支援事業（タイプ1：教育の質的転換）に採択され、教育の特色化や機能強化に全学的に取り組んでいる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 私立大学等改革総合支援事業において、2017 年度から 2022 年度までの 6 年連続、そして 2024 年度においても選定された(資料 123)。

改善状況を示す根拠資料

資料 123：2024(令和 6)年度「私立大学等改革総合支援事業」の選定結果について

質的向上のための水準：評価を実施せず